



AW4416

ver1.2、1.3の追加変更点

ここでは、AW4416 ver1.2および1.3から追加／変更された機能や仕様について説明します。なお、各項目に、オペレーションガイド／リファレンスガイドの参照ページを掲載してありますので、併せてお読みください。

ver1.3で追加／変更された機能は“マスタリング”と“デフラグ”的機能です。その他はver1.2からの追加／変更です。

目次

マスタリング実行中の表示	2
連続したマスタリング処理	2
内蔵ハードディスクのデフラグ機能	3
デフラグ機能について	3
デフラグを実行する	3
EXPORTコマンドを使ったWAVファイルの書き出し	5
トラック内のオーディオデータをWAVファイルに書き出す	5
パーティクルトラック内のオーディオをWAVファイルに書き出す	9
APPENDコマンドを使ったリージョンの統合化	9
トラック内のリージョンを統合する	10
パーティクルトラック内のリージョンを統合する	11
WAVE DISPLAYポップアップウィンドウとロケート操作の連動	12
ロケートポイント／マーカーの消去方法の変更	13
テンポマップの編集方法	14
[REC TRACK SELECT]キーを使ったトラック指定	14
[BANK]キー／パッド1～8を使ったパッドの指定	15
パッド1～8を使ったパッドトラックの選択	15
ロールバックタイムの設定範囲変更	16
フェードタイムの設定範囲変更	16
[UNDO] / [REDO]キーの点灯と消灯	16
カレントソング保存のショートカット	16
TRACK [CUE]キーを使ったステレオトラックのモニター	16
キュ／レビュー機能	17
エンドポイントの自動更新	17
[SEL]キーを使ったフェーダーグループの一時解除	17
MTCとワードクロックをスレーブにした同期走行が可能	18

マスタリング実行中の表示

実行中に残り時間(概算)が表示されますが、ドライブやメディアの状況によって、実際の実行時間との誤差が生じます。

CD-R / RWメディアへの書き込み操作中に、進捗状況を伝えるメッセージが表示されるようになりました。各メッセージの意味は次の通りです。

メッセージ	意味
IMAGE FILE CREATING...	ハードディスク上にイメージファイルを作成しています。
TEST WRITING...	書き込みテストを行っています。
WAITING FOR TEST WRITING...	書き込みテストの終了を待っています。
TEST FINALIZING...	ファイナライズ処理のテストを行っています。
WRITING...	書き込みを実行しています。
WAITING FOR WRITING...	書き込み操作の終了を待っています。
FINALIZING...	ファイナライズを実行しています。
COMPARING...	書き込まれたデータとイメージファイルを比較しています。

参照: マスタリングの本番 オペレーションガイドP252
MASTERING画面Write CDページ リファレンスガイドP10

連続したマスタリング処理

ver 1.3では、マスタリングが終了した直後に、他のメディアにも引き続きマスタリングを行えるようになりました。

ディスクアットワーンス方式でマスタリングを実行した場合(または、トラックアットワーンス方式で新規メディアにマスタリングを実行した場合)は、マスタリングが終了すると自動的にトレイがイジェクトされ、次のメッセージが表示されます。

- 新規に挿入したメディアが書き込み済みCD-Rの場合、“Change Media Please”とメッセージが表示され、トレイが自動的にイジェクトされます。適切なメディアに交換してください。
- 新規に挿入したメディアが書き込み済みCD-RWの場合、“Will Erase CD-RW Media. ARE YOU SURE?”とデータの消去を確認するメッセージが表示されます。CD-RWメディアを消去してマスタリングを実行するには、OKボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。



引き続き別のメディアにマスタリングを行いたいときは、ここでメディアを入れ替え、OKボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。新規メディアへのマスタリングが開始されます。この方法を使えば、作成済みのイメージファイルを再利用できるため、2枚目以降のマスタリングの時間を短縮できます。

また、上記の画面でCANCELボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押すと、マスタリング操作を完了します。

参照: マスタリングの本番 オペレーションガイドP252
MASTERING画面Write CDページ リファレンスガイドP10

内蔵ハードディスクのデフラグ機能

FILE画面のDisk Util.ページに、内蔵ハードディスクの断片化を解消する“デフラグ機能”が追加されました。

デフラグ機能について

内蔵ハードディスクをフォーマットした直後に録音を行うときは、ハードディスクの連続した領域にオーディオデータが書き込まれていきます。しかし、録音や編集を繰り返すに従って、一連のオーディオデータがハードディスク上の離れた位置に分割して書き込まれるようになります。この現象を“フラグメンテーション(断片化)”と呼びます。断片化が激しくなると、再生時のアクセス速度が低下して音飛びの原因になったり、空き容量が十分あるはずなのに新規ソングが作成できないという症状が起きることがあります。

この断片化を解消するのが、“デフラグ”と呼ばれる機能です。デフラグを実行すると、内蔵ハードディスク上のオーディオデータが空き領域に転記され、ソング単位で前詰めに再配置されていきます。

デフラグを実行する

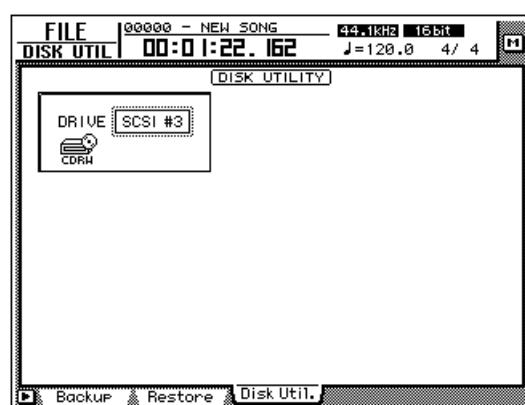


- ・デフラグ実行中に、ハードディスクのリード/ライトエラーが原因でオーディオデータが破損し、復帰できなくなることがあります。大事なソングは、デフラグ処理を行う前に、必ず外部メディアなどにバックアップを作成してください。
- ・デフラグ実行中は、絶対に電源を切らないでください。実行中に電源が切れると、内蔵ハードディスクやデータが致命的な損傷を受け、復帰できなくなる恐れがあります。作業前に電源コードのプラグが抜けやすくなっているいかを十分にご注意ください。
- ・落雷や過電流などが原因で停電が起こる可能性のあるときは、作業を行わないでください。

デフラグ処理を実行する手順は、次の通りです。

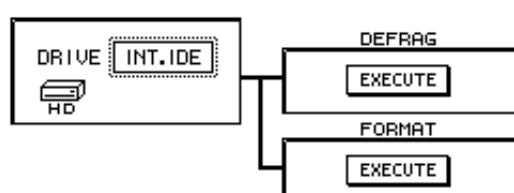
1. [FILE]キー[F3](Disk Util.)キーを押してください。

FILE画面のDisk Util.ページが表示されます。



2. [DATA/JOG]ダイアルを回してDRIVE(ドライブセレクト)欄に“INT. IDE”と表示させ、[ENTER]キーを押してください。

DRIVE欄で“INT. IDE”(内蔵ハードディスク)を選択すると、画面が次のように変化します。



3. DEFrag欄のEXECUTEボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押してください。
デフラグの実行を確認するポップアップウィンドウが表示されます。



4. OKボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押してください。

デフラグが開始され、画面内に進行状況と残り時間(概算)が表示されます。処理が完了すると、手順2の画面に戻ります。また、デフラグ処理を中断したいときは、CANCELボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。

参照: ソングのバックアップとリストア オペレーションガイドP239
FILE画面Disk Utilページ リファレンスガイドP31

- ・内蔵ハードディスクに断片化が起きていない場合、“Defrag Cluster Not Found!”と表示され、デフラグは実行できません。
- ・デフラグ処理に必要な時間は、1GBあたり約1時間です。ただし、この時間はハードディスク上のデータ配置やソングの構成によって変化します。表示された残り時間よりも短時間で処理が終わることもあります。
- ・デフラグ処理中にソングデータに異常が見つかった場合、そのソングはスキップしてデフラグ処理を続けます。このとき、画面内に異常が見つかったソングの情報が表示されます。
- ・デフラグ処理中にハードディスクのリード／ライトエラーが発生した場合、エラーの内容を表示してデフラグを中止します。

EXPORTコマンドを使ったWAVファイルの書き出し



注! 意

WAVファイルを外部SCSI機器でフォーマットしたMOなどのメディアに書き出す場合、FAT16でフォーマットされたメディアを使用してください。

外部SCSI機器でフォーマットしたメディアにWAVファイルを書き出す場合、FILE画面のDisk Util.ページでFORMAT欄のタイプをORIGINALでフォーマットしたメディアには書き出しきれません。詳しくはオペレーションガイドP245、P246をお読みください。

CD-RWの場合は、書き出し実行時に以前のデータは全て消去されます。

WAVファイルを書き出す場合、ソングおよびハードディスクに書き出すファイルと同等またはそれ以上の作業領域を確保しておく必要があります。詳しくはオペレーションガイド第11章、および「追記ソングの構造と容量について」をご覧ください。

任意のトラック／またはバーチャルトラックに含まれるオーディオデータを、WAVファイルに変換して、外部SCSI機器に書き出しが可能になりました。これを行うには、EDIT画面／TR Editページ、もしくはV.TR EditページのTRACK／PART／REGIONメニューに追加されたEXPORT(エクスポート)コマンドを使います。

WAVファイルに書き出す範囲は、トラック単位、パート単位、リージョン単位で指定ができます。トラック単位(TRACKメニュー)で指定する場合は、1～16の任意のトラック、1～16の全トラック、ステレオトラックが選択できます。また、パート単位(PARTメニュー)で指定する場合は、選択した範囲の任意のトラック、または1～16すべてのトラックが選べます。

EXPORTコマンドを使ってWAVファイルを書き出す場合のサイズの目安は次の通りです。

1分の長さのオーディオデータをWAVファイルに書き出した場合の大きさ

Recbit.	Fs	1トラックあたり	16トラックあたり
16bit	44.1kHz	約5.2MB	約83MB
	48kHz	約5.6MB	約90MB
24bit	44.1kHz	約7.8MB	約124MB
	48kHz	約8.5MB	約135MB

ステレオWAVファイルが作成される場合は、上記の倍の大きさになります。

メディアの空き容量を越える大きさのWAVファイルを書き出すことは出来ません。MOなどの場合、空き容量を最大にするためにフォーマットしてからEXPORTコマンドを実行されることをお勧めします。

WAVファイルを書き出すことの出来るメディアは、FAT16(512バイト／セクタ)でフォーマットされたもの(MOなど)またはCD-R／RWです。640MBや1.3GBのMOには対応していません。



注! 意

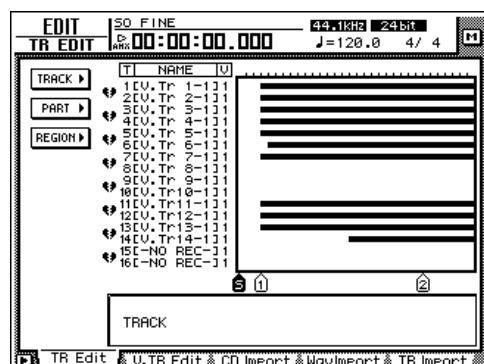
・WAVファイルをCD-RWドライブに書き出す場合、1つのメディアに書き出し可能なファイル数は1つに制限されています。また、すでにWAVファイルが書き出されたCD-R/RWメディアに、WAVファイルを追記することはできません。

・EXPORTコマンドは、実時間より長い処理時間が必要です。また書き出しを実行している途中にキャンセルすることはできません。

トラック内のオーディオデータをWAVファイルに書き出す

TR EditページのEXPORTコマンドを使って、トラック内のオーディオデータをWAVファイルに書き出す方法は、次の通りです。

1. 外部SCSI機器(MOドライブなど)または内蔵CD-RWドライブに、WAVファイルを書き出すメディアを挿入してください。
2. RECORDERセクションの[EDIT]キー[F1](TR Edit)キーを押してください。EDIT画面のTR Editページが表示されます。



3. トラック単位でWAVファイルを書き出したい場合はTRACKメニュー、パート単位で書き出したい場合はPARTメニュー、リージョン単位で書き出したい場合はREGIONメニューにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。
4. EXPORTコマンドのボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。EXPORTコマンドの各パラメーターが表示されます。



5. 手順3で選択したメニューに応じて、次の各項目の中から設定したいパラメーターにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押してください。

TRACKメニューを選んだ場合

- TRACK(トラック)

WAVファイルに書き出すトラックを選択します。設定値は1～16(指定したトラック)“ AL ”(トラック1～16すべて)“ ST ”(ステレオトラック)が選べます。1～16を選んだ場合は指定したトラックのモノラルWAVファイル(トラックがペアに設定されている場合はステレオWAVファイル)“ AL ”を選んだ選んだ場合は16トラック分のモノラルWAVファイル、“ ST ”を選んだ場合はステレオのWAVファイルが作成されます。

PARTメニューを選んだ場合

- TRACK(トラック)

WAVファイルに書き出すトラックを選択します。選択可能な設定値や作成されるWAVファイルの種類は、TRACKメニューのTRACKパラメーターと同じです(ただし、START / ENDパラメーターを使って、トラック内で書き出す範囲を指定できる点が異なります)。

- START(スタート)

WAVファイルに書き出す範囲の開始位置を設定します。

- END(エンド)

WAVファイルに書き出す範囲の終了位置を設定します。

REGIONメニューを選んだ場合

- REGION(リージョン)

WAVファイルに書き出すリージョンを選択します。



● ● ● ● ● ● ● ●

TRACK / PARTメニューのTRACKパラメーターを“ AL ”に設定した場合:

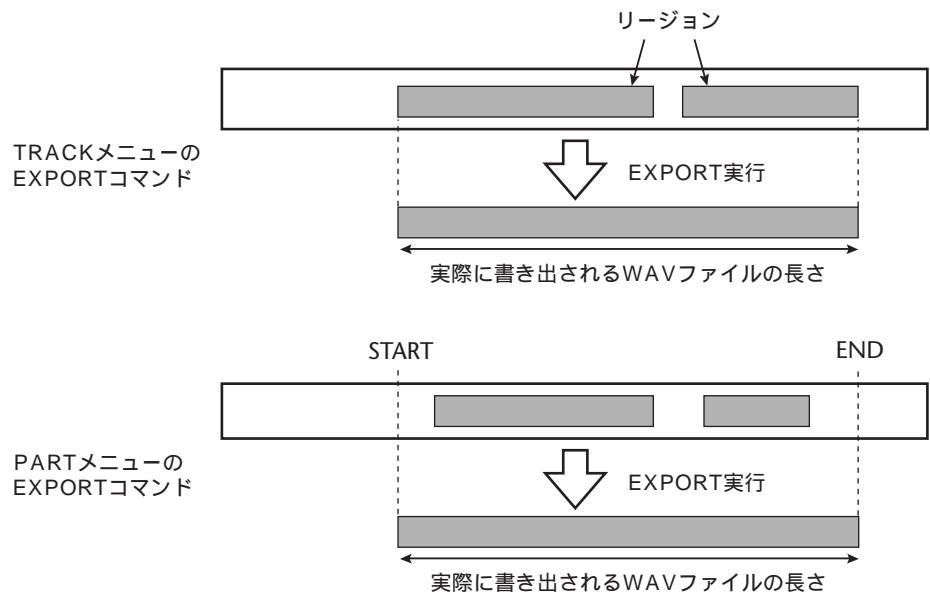
- リージョンを一切含まないトラック(またはパート)は、WAVファイルが書き出されません。
- メディアに空き容量がある場合、1トラックから順番にWAVファイルを書き出します。
- WAVファイルを書き出すドライブとしてCD-RWドライブを選択できません。



● ● ● ● ● ● ● ●

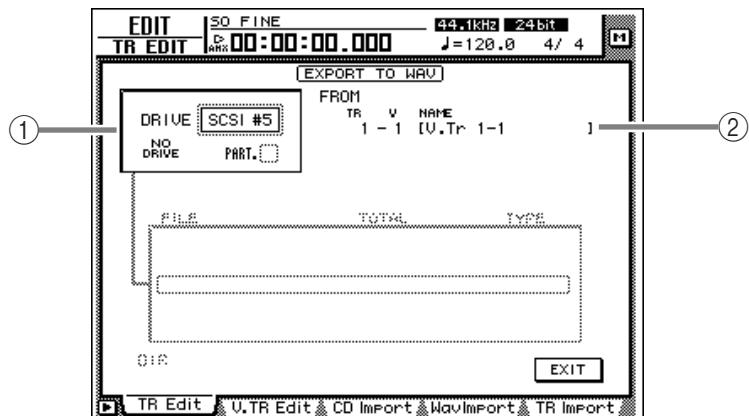
REGIONメニューのEXPORTコマンドは、TRACK / PARTメニューより短い処理時間で実行できます。

6. [DATA/JOG]ダイアル(REGIONメニューを選択した場合は[]/[]キー)を使って設定を変更し、[ENTER]キーを押してください。



7. TO DRIVE(トウドライブ)パラメーターにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

ディスプレイが次のように切り替わります。



UTILITY画面Prefer.3ページの"CD BACKUP/WAV-EXP MODE"を設定することにより、データを書き込む前にエラーが発生しないか、またはデータが正しく書き込まれたかテストを行うことができます。詳しくはリファレンスガイドP38をお読みください。(バージョン1.0では"CD BACKUP MODE"と呼んでいた設定が、バージョン1.2では"CD BACKUP/WAV-EXP MODE"に変更されています。)

DRIVE欄

内蔵CD-RW ドライブまたは外部SCSI機器を選択します。

FROM

手順4でTRACK / PARTメニューを選択した場合は、トラックナンバー(TR欄)、バーチャルトラックナンバー(V欄)、トラックの名前(NAME欄)を表示します。REGIONメニューを選択した場合は、リージョンの名前を表示します。

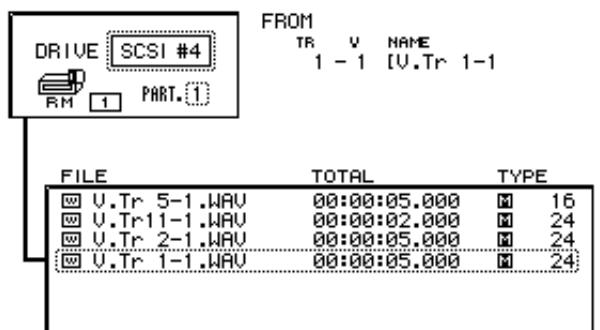
また、手順4でPART / REGIONメニューを選んだ場合は、この表示欄の下に、選択されたオーディオの範囲が表示されます。



- ・“□ .”は現在のディレクトリ、“□ ..”は1つ上のディレクトリを表しています。1つ上のディレクトリに戻るには、“□ ..”にカーソルを合わせて[ENTER]キーを押します。
- ・パーティションが分けられたハードディスクを選択した場合は、PART.欄でパーティションを切り替えることができます。

8. DRIVE欄にカーソルを合わせ、[DATA/JOG]ダイアルを使ってドライブのSCSI IDを選択し、[ENTER]キーを押してください。

メディア(MOディスクなど)が挿入されていれば、自動認識されます。挿入されたメディアにすでにWAVファイルが記録されている場合は、次のように表示されます。



- ・NAME EDITポップアップウィンドウの操作方法については、オペレーションガイドのP62をご参照ください。

- ・TRACKパラメーターで“AL”を選択した場合は、ファイル名の変更はできません。

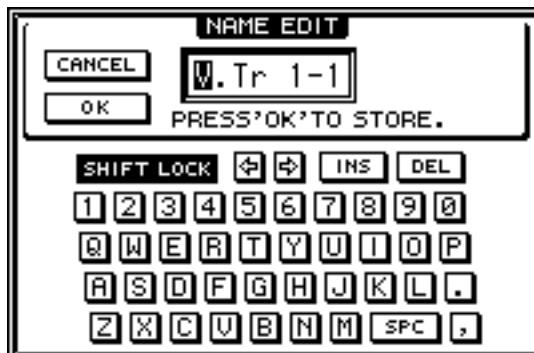
- ・CD-R/RWメディアに書き出す場合、ファイル名に使える文字は、大文字アルファベット(A~Z)、数字(0~9)、アンダースコア(_)に制限されます(ファイル名にスペースを入力すると、アンダースコアの文字に変換されます)。CD-R/RW以外のメディアに書き出す場合、ファイル名に「\$/.;*?"<>|」の文字や先頭にピリオド(.)を使用することは出来ません。これらの使用できない文字はアンダースコア(_)に変換されます。また、全てスペースにすることも出来ません。

9. EXITボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

WAVファイルの書き出し先となるドライブが確定し、EXPORTコマンドの各種パラメーターを選択する状態に戻ります。

10. WAVファイルに任意のファイル名を付けたい場合は、TO FILE(トウファイル)パラメーターのボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

WAVファイルのファイル名を設定するNAME EDITポップアップウィンドウが表示されます。初期状態では、手順6で選択したトラック名/リージョン名+.WAVがそのままファイル名となります。



11. ファイル名の設定が終わったら、OKボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。

12. [DATA/JOG]ダイアルを使って設定値を16に変更し、[ENTER]キーを押してください。



- 24ビットのままWAVファイルに書き出す場合は、手順12~13の操作は不要です。
- カレントソングが16ビットの場合は、TO SIZEのパラメーターは16ビットでのみ、変更できません。



書き出し先のデバイスに、同じ名前のファイルが存在するときは、上書きするかどうかを確認するポップアップウィンドウが表示されます。上書きする場合はOKボタン、上書きしたくないときはCANCELボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。CANCELボタンを使った場合は、EXPORTコマンドのパラメーターを選択する状態に戻ります。必要に応じてファイル名を変更してください。

13. 24ビットのオーディオトラックを16ビットのWAVファイルに変換して書き出したい場合は、TO SIZE(トゥサイズ)パラメーターのボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

カレントソングのサンプルサイズが24ビットの場合は、下位8ビットを切り捨て、16ビットのWAVファイルに変換して書き出すことができます。

14. WAVファイルの書き出しを実行するには、EXECUTEボタンにカーソルを合わせて[ENTER]キーを押してください。

確認用のポップアップウィンドウが表示されます。

15. OKボタンにカーソルを移動させ、[ENTER]キーを押してください。

WAVファイルの書き出しが実行されます。

バーチャルトラック内のオーディオをWAVファイルに書き出す

V.TR Editページでも、EXPORTコマンドを使って、任意のバーチャルトラック内のオーディオデータをWAVファイルに書き出すことができます。操作方法は、最初にEDIT画面のV.TR Editページを呼び出し([EDIT]キー[F2]キー)エディットの対象としてバーチャルトラック1~8を選択する点を除けば、TR Editページに含まれるEXPORTコマンドと同じです。詳しくは前項をご参照ください。

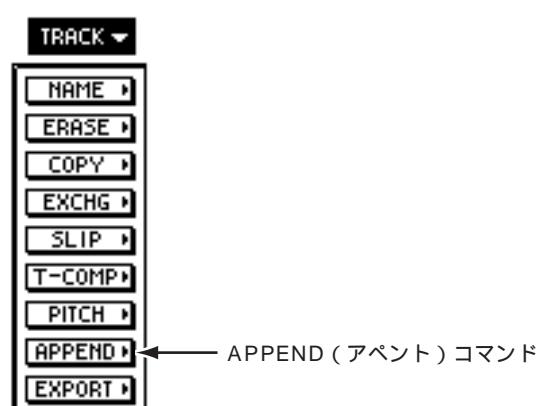
APPENDコマンドを使ったリージョンの統合化



APPENDコマンドを行うと、リージョン同士の隙間は無音のオーディオデータとして変換されます。

APPENDコマンドは、実時間より長い処理時間が必要です。また、実行している途中にキャンセルをすることはありません。

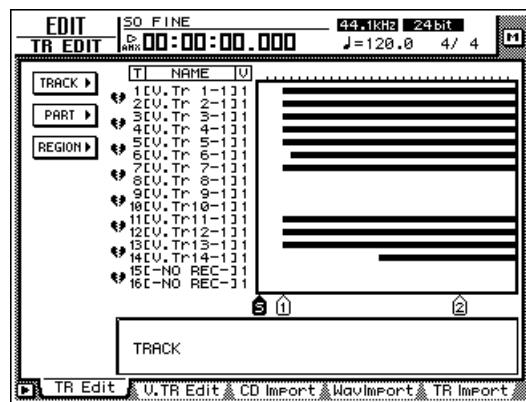
任意のトラック / バーチャルトラックに含まれる複数のリージョンを、1つのリージョンにまとめるができるようになりました。これを行うには、EDIT画面 / TR EditページのTRACK / PARTメニュー、およびEDIT画面 / V.TR EditページのTRACK / PARTメニューに追加された、APPEND(アpend)コマンドを使います。



トラック内のリージョンを統合する

TR Editページで、APPENDコマンドを使ってトラック内のリージョンを統合する方法は、次の通りです。

1. RECORDERセクションの[EDIT]キー [F1](TR Edit)キーを押してください。 EDIT画面のTR Editページが表示されます。



2. トラック全体のリージョンを統合したいときはTRACKメニュー、選択した範囲(パート)に含まれるリージョンのみを統合したいときはPARTメニューにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押してください。
3. APPENDコマンドのボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。
4. 手順2で選択したメニューに応じて、次の中から設定するパラメーターのボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

TRACKメニューを選んだ場合

- TRACK(トラック)
リージョンを統合するトラックを選択します。

PARTメニューを選んだ場合

- TRACK(トラック)
リージョンを統合するトラックを選択します。
- START(スタート)
リージョンを統合する範囲の開始位置を設定します。
- END(エンド)
リージョンを統合する範囲の終了位置を設定します。

5. [DATA/JOG]ダイアルを使って設定を変更し、[ENTER]キーを押してください。

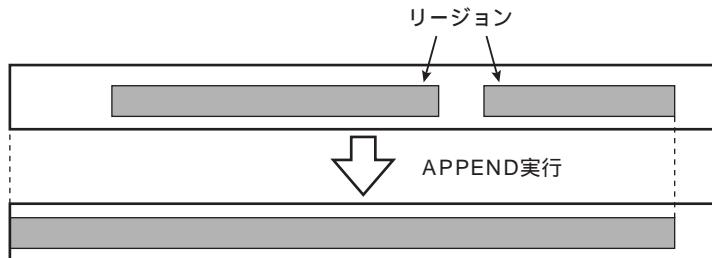
• TRACKメニューでTRACK/パラメーターを設定するときは、REC TRACK SELECT[1]~[16]キーを使って、直接トラックナンバーを選択できます。



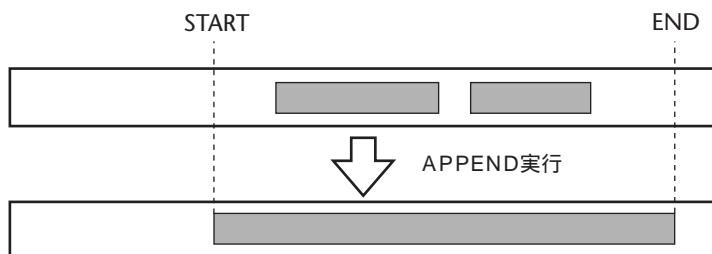
● ● ● ● ● ● ●
・TRACKメニューのAPPENDコマンドを実行すると、選択されたトラックの先頭位置(絶対時刻のゼロの位置)から、トラック内の最後に記録されているリージョンまでが、1つのリージョンに統合されます。リージョンのない部分は、無音のオーディオデータとなります。

6. APPENDコマンドを実行するには、EXECUTEボタンにカーソルを合わせて、[ENTER]キーを押してください。

選択したトラック(パート)内のリージョンが1つに統合されます。



- ・PARTメニューのAPPENDコマンドを実行すると、選択された範囲のみが1つのリージョンに統合されます。リージョンのない部分は、無音のオーディオデータとなります。



バーチャルトラック内のリージョンを統合する

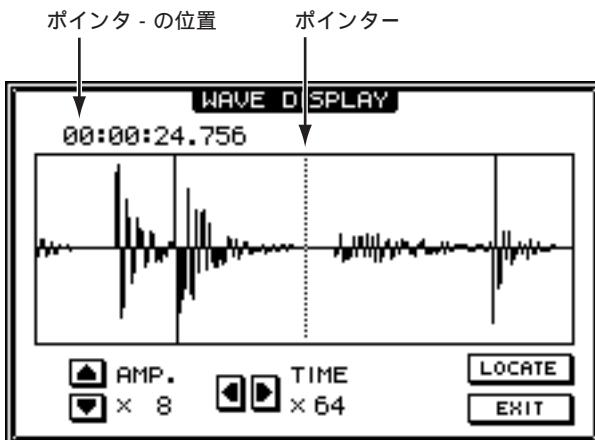
V.TR Editページでも、APPENDコマンドを使ってバーチャルトラック内のリージョンを統合することができます。この場合の操作方法は、最初にEDIT画面のV.TR Editページを呼び出し([EDIT]キー + [F2]キー)エディットの対象として同一トラックに含まれるバーチャルトラック1~8を選択する点を除けば、TR Editページに含まれるAPPENDコマンドと同じです。詳しくは前項をご参照ください。

WAVE DISPLAYポップアップウィンドウとロケート操作の連動



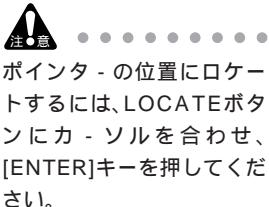
これらのキーを操作しても、
ポインターの位置が移動す
るだけで、カウンターの位置
には影響しません。

WAVE DISPLAYポップアップウィンドウを表示しているときに、以下のキーを
使って、ポインターの位置を移動できるようになりました。



- ・[RTZ]キー ポインターをゼロの位置に移動します。
- ・[◀◀] / [▶▶]キー ポインターをスタート / エンドポイントに移動します。
- ・[◀] / [▶]キー ポインターを後方 / 前方のマーカーに移動します。
- ・[A] / [B]キー ポインターをA / Bポイントに移動します。
- ・[IN] / [OUT]キー ポインターをイン / アウトポイントに移動します。

また、WAVE DISPLAYポップアップウィンドウが表示されているときに、現在の
ポインターの位置をロケートポイントとして指定できるようになりました。操作方
法は、次の通りです。



ポインター - の位置にロケー
トするには、LOCATEボタ
ンにカ - ソルを合わせ、
[ENTER]キーを押してください。

- ・[MARK]キーを押す 現在のポインターの位置にマーカーが設定されます。
- ・[SET]キーを押しながら[A] / [B]キーを押す
..... 現在のポインターの位置にA / Bポイントが設定され
ます。
- ・[SET]キーを押しながら[IN] / [OUT]キーを押す
..... 現在のポインターの位置に、イン / アウトポイントが
設定されます。

参照: WAVE DISPLAYポップアップウィンドウ リファレンスガイドP91
ロケート操作 オペレーションガイドP112

ロケートポイント／マーカーの消去方法の変更

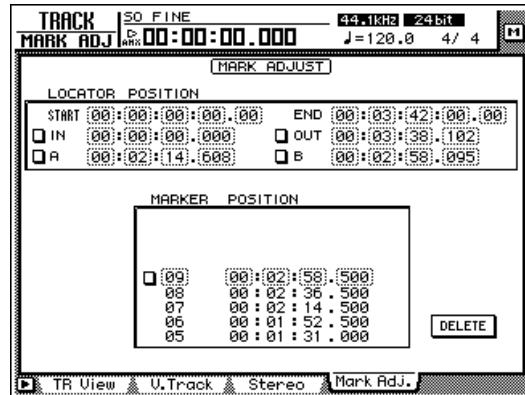
TRACK画面 / Mark Adj.ページでロケートポイント／マーカーを消去する方法が変わりました。操作方法は次の通りです。

1. RECORDERセクションの[TRACK]キー [F4](Mark Adj.)キーを押してください。



- 操作2を繰り返して、ロケートポイントを複数選択することができます。ただし、消去の対象として選択可能なマーカーは1種類のみです。
- スタート／エンドポイントは消去できません。

TRACK画面のMark Adj.ページが表示されます。



2. 消去したいロケートポイント／マーカーを選び、表示部の左側にあるボタンにカーソルを移動させて、[ENTER]キーを押してください。



- バージョン1.2では、オペレーションガイドP119にある消去方法は利用できません。

ボタンに“D”的文字が表示されます。この表示は、該当するロケートポイント／マーカーが、消去の対象として選択されていることを示します。

OUT 00:03:38.102
 B 00:02:58.095

3. DELETEボタンにカーソルを合わせ、[ENTER]キーを押してください。

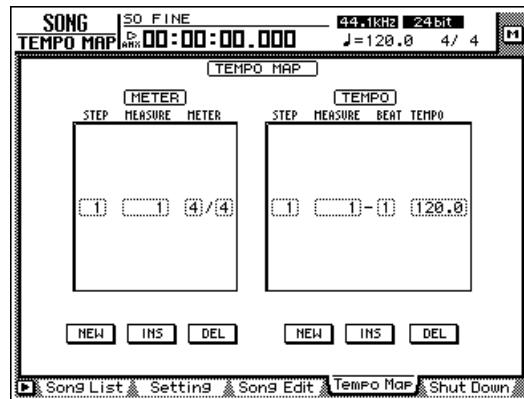
手順1で選択したロケートポイント／マーカーが消去されます。イン／アウトポイントやA／Bポイントが消去された場合は、該当するキー([IN] / [OUT]キーまたは[A] / [B]キー)が消灯します。

参照: 各種ロケートポイントを消去する オペレーションガイドP119

テンポマップの編集方法

テンポマップ(SONG画面 / Tempo Mapページ)に含まれる拍子情報とテンポ情報を、個別に編集できるようになりました。

バージョン1.0では、EDIT SELECT(エディットセレクト)ボタンを使って、TEMPO欄またはMETER欄を選んでから、テンポ / 拍子情報を編集していました。これに対してバージョン1.2では、EDIT SELECTボタンが廃止され、TEMPO欄とMETER欄の両方に用意されたNEW / INS / DELボタンを使って、テンポ情報と拍子情報を直接操作できます。

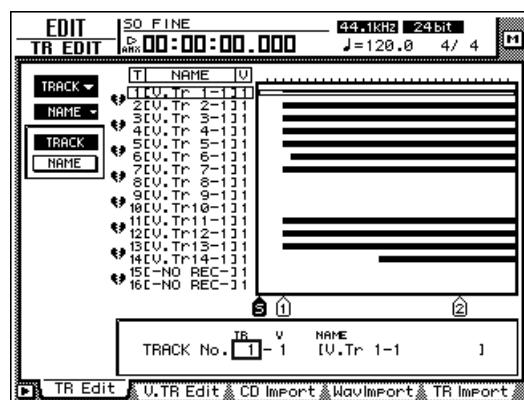


参照: Tempo Mapページ リファレンスガイドP5

[REC TRACK SELECT]キーを使ったトラック指定

EDIT画面 / TR Editページを使ってトラックをエディットするときに、[REC TRACK SELECT]キーを使ってトラックナンバー(1 ~ 16)を指定できるようになりました。

TR EditページのTRACK / PARTメニューで、トラックナンバーを指定するパラメーターが選ばれ、パラメーター設定欄にカーソルがあるときに、REC TRACK SELECT[1]~[16]キーを使ってトラックナンバーを直接指定できます。

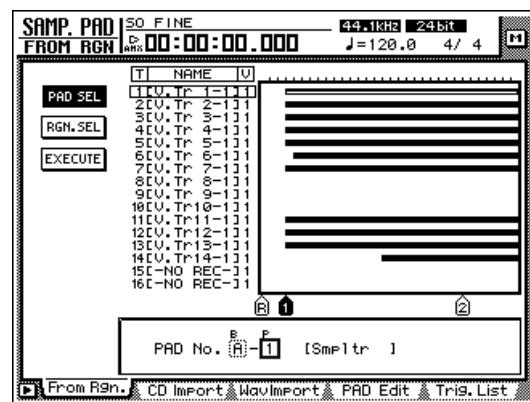


参照: EDIT画面 リファレンスガイドP97

[BANK]キー／パッド1～8を使ったパッドの指定

SAMP.PAD画面を使ってサンプリングパッドをエディットをするときに、[BANK]キーやパッド1～8を使って、バンク／パッドを指定できるようになりました。

SAMP.PAD画面の各ページで、バンクやパッドナンバーを指定するパラメーターが選ばれ、パラメーター設定欄にカーソルがあるときに、[BANK]キー／パッド1～8を使ってバンク(A / B)とパッドナンバー(1～8)を直接指定できます。



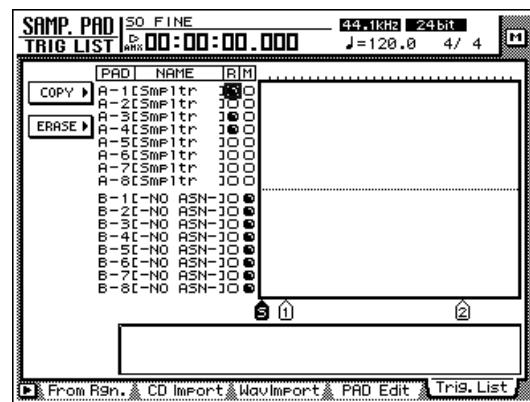
参照: SAMP.PAD画面 リファレンスガイドP79

パッド1～8を使ったパッドトラックの選択

パッド1～8を使って、該当するパッドトラック(パッドのトリガーイベントを記録／再生するトラック)のレコーディングボタンを、直接オン／オフできるようになりました。

これを行うには、SAMP.PAD画面のTrig. Listページを呼び出し、R(レコーディング)ボタンのいずれか1つにカーソルを合わせます。この状態でパッド1～8を押すと、該当するパッドトラックで、レコーディングボタンのオン／オフが切り替わります。

また、パッド1～8を使って、パッドトラックのミュートのオン／オフを切り替えることもできます。これを行うには、同じTrig. ListページにあるM(ミュート)スイッチのいずれかにカーソルを合わせ、パッド1～8を押すと、該当するパッドトラックのミュートのオン／オフが切り替わります。



参照: パッドトラック(Trig. Listページ) リファレンスガイドP87

ロールバックタイムの設定範囲変更

UTILITY画面のPrefer.2ページで設定するロールバックタイム([ROLL BACK]キーを押したときに巻き戻る時間)の可変範囲が、0 ~ 30秒に変更されました(バージョン1.0では0 ~ 5秒)。

参照: ロールバックタイム リファレンスガイドP35

フェードタイムの設定範囲変更

SCENE画面のFade Timeページで設定するフェードタイム(シーンをリコールしたときに、各チャンネルのフェーダーが新しい位置に到達するまでの時間)の可変範囲が、0.0秒 ~ 25.0秒に変更されました(バージョン1.0では0.0 ~ 10.0秒)。

参照: フェードタイム リファレンスガイドP124

[UNDO] / [REDO]キーの点灯と消灯

現在アンドゥやリドゥが実行できるかどうかを、[UNDO] / [REDO]キーの点灯と消灯で確認できるようになりました。[UNDO] / [REDO]キーが点灯しているときはアンドゥ / リドゥが実行でき、消灯しているときは実行できません。

参照: [UNDO] / [REDO]キー オペレーションガイドP41

カレントソング保存のショートカット

[SHIFT]キーを押しながら[SONG]キーを押して、SONG画面のSong Listページを直接呼び出すことが可能になりました。この方法でSong Listページを呼び出したときは、カーソルが自動的にSAVEボタンの位置に移動しますので、カレントソングを保存したいときのショートカットとして利用できます。

参照: ソングの保存(Song Listページ) リファレンスガイドP1

TRACK [CUE]キーを使ったステレオトラックのモニター

TRACK [CUE]キーを使って、任意のトラックの信号をMONITOR OUT端子からダイレクト出力させるとき、ステレオトラックを選んだ場合に限り、MONITOR OUT端子からステレオで出力されるようになりました(トラック1 ~ 16は、バージョン1.0と同じくモノラル出力されます)。

参照: TRACK [CUE]キー オペレーションガイドP40、103

キュー / レビュー機能

バージョン1.2では、[FF] / [REW]キーを押したときの動作が、トランスポートの状態に応じて次のように変わります。

再生中に[FF] / [REW]キーを押した場合

キュー / レビューを行います(バージョン1.0では、再生中 / 停止中にかかわらず、この動作でした)。

停止中に[FF] / [REW]キーを押した場合

通常の早送り / 巻き戻しを行います。

参照: [FF]キー / [REW]キー オペレーションガイドP46

エンドポイントの自動更新

トラックの消去や移動など、エディット操作を行ったためにソングの長さが変化した場合、自動的にソングの最終位置にエンドポイントが設定されるようになりました。

参照: エンドポイント リファレンスマニュアルP95

[SEL]キーを使ったフェーダーグループの一時解除

フェーダーグループが有効なときに、任意のチャンネルのみ、一時的にフェーダーグループから切り離して操作できるようになりました。フェーダーグループ内で、特定のチャンネルのバランスを変えたいときに、便利な方法です。操作方法は次の通りです。

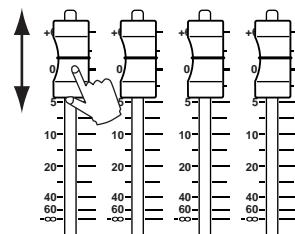
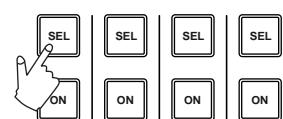
1. フェーダーグループから一時解除したいチャンネルの[SEL]キーを押してください。
2. [SEL]キーを押し続けながら、フェーダーを操作してください。

[SEL]キーを押している間は、該当するチャンネルがフェーダーグループから切り離されます。

参照: フェーダーグループ リファレンスガイドP58

3. フェーダーの操作が終わったら、[SEL]キーを離してください。

[SEL]キーを離すと、該当するチャンネルがフェーダーグループに復帰します。



MTCとワードクロックをスレーブにした同期走行が可能

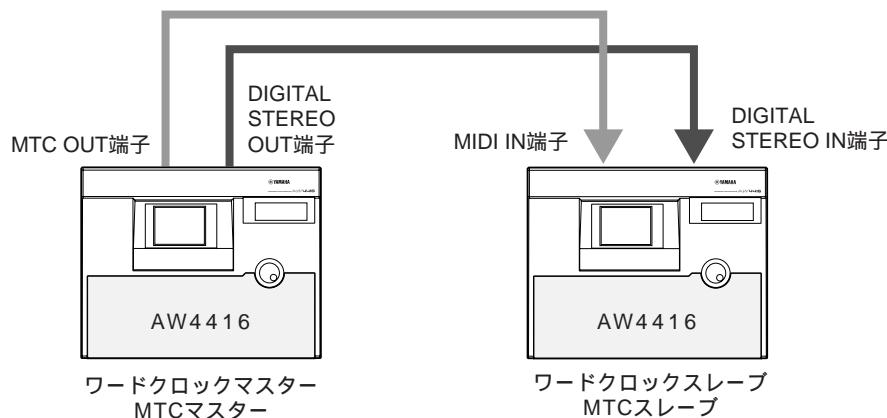
注意

デジタルオーディオ信号を送受信しながら、MTCを使ってAW4416と外部機器を同期走行させる場合は、片方をワードクロック/MTC両方のマスター、もう一方をワードクロック/MTC両方のスレーブとして動作させるのが基本です。これ以外の方法では、うまく同期ができないかったり、AW4416側のトラックが正しいピッチで再生されない場合があります。

バージョン1.0では、AW4416がワードクロックスレーブのときは、MTCスレーブに設定することができませんでした。これに対してバージョン1.2では、ワードクロックスレーブのときでも、MTCスレーブとして外部機器と同期走行ができるようになりました。

例えば2台のAW4416を使って、デジタルオーディオ信号を送受信しながら、MTCベースで同期走行させることができます(この場合、片方のAW4416がワードクロック/MTCのマスター、もう一方がワードクロック/MTCのスレーブとなります)

<接続例>



SYNC AVE.パラメーターに関する補足

SYNC AVE.パラメーターは、ワードクロックがINTに設定されている場合に有効となるパラメーターです。

AW4416をMTCスレーブとして外部機器と同期走行させる場合、受信するMTCの精度が不安定になった場合でも、AW4416は再生ピッチを微調節することで追従しようとします。このようなMTCの変動に対する許容範囲を設定するのが、MIDI画面 / MIDI Syncページに含まれるSYNC AVE.パラメーターです。

SYNC AVE.パラメーターで“OFF”を選択した場合は、許容範囲が最小になり、受信したMTCに対して最も高い精度で同期します。ただし、変動の大きいMTCを受信したときに、同期が外れたり不安定になる場合があります。この設定は、2台のAW4416を同期走行させるときなどに適しています。

SYNC AVE.パラメーターで“1”を選択した場合は許容範囲が大きくなり、“2”を選択した場合は許容範囲が最大になります。MTCの変動が大きい外部機器(テープレコーダーやコンピューターベースのシーケンスソフトなど)をMTCマスターとしてAW4416と同期させる場合は、SYNC AVE.パラメーターを“2”に設定してみてください。

参照: SYNC AVE.パラメーター(MIDI Syncページ) リファレンスガイドP41
ワードクロックの設定 リファレンスガイドP20



ヤマハ株式会社

PA・DMI事業部 PA営業部 ☎ 053-460-2455
〒430-8650 浜松市中沢町10-1